

JPTA



NEWS



2019

特集

社会から認められる理学療法士になる

～ 第54回日本理学療法学会in徳島 ～

FEBRUARY



vol 317

2

特集

社会から認められる理学療法士になる

第54回 日本理学療法学会 研修大会in徳島

2018年に茨城県で実施された第53回大会より、開催時期の変更をはじめ、その内容も多世代の理学療法士を対象とした実技中心のものに変わったことをご存知ですか？

新年号となって初めての学術研修大会は、「社会から認められる理学療法士になる」をテーマに公益社団法人徳島県理学療法士会の皆さんが企画・運営を行います。今号では、会員の皆さんへ「第54回日本理学療法学会 研修大会in徳島」をご案内します。

Q2 「第54回日本理学療法学会 研修大会in徳島」へ参加する予定はありますか？

「託児所完備」で子育て中のママパパ理学療法士にやさしい研修会、それが徳島日研です！

子どもがまだ小さいので行けません。(大阪府30代女性)

徳島県は臨床実習で行った事があるから。(静岡県30代男性)

私の職場では、大きな研修会への参加権は順番で回ってきます。今年は私の番です。(京都府40代男性)

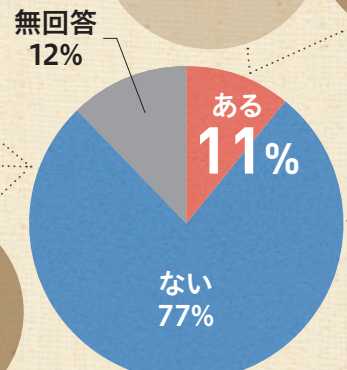
羽田空港から徳島空港まで約1時間、新神戸駅から徳島駅まで2時間弱！旅行だと思えば意外と近い！

徳島は遠いので少し躊躇しています。(埼玉県40代男性)

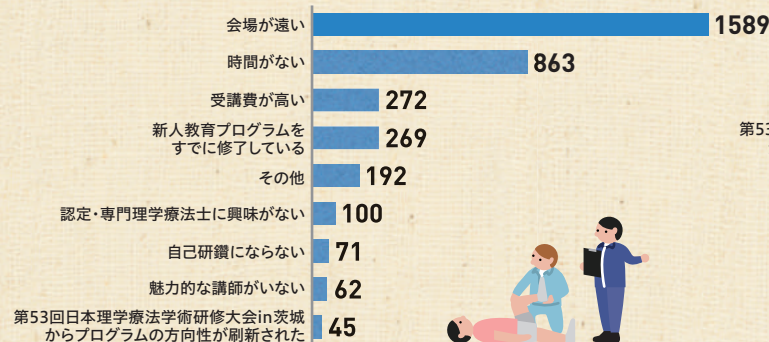
次のページで前回大会に参加した先輩からのメッセージをはじめ、何が学べるのか、お伝えします！新人教育プログラムの修了や、認定・専門理学療法士の取得を目指す方は必見です！

日研がなにをしているかわからない。(兵庫県20代男性)

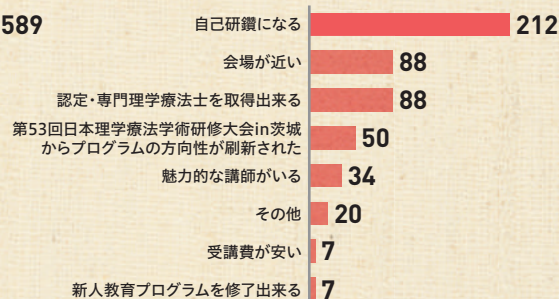
正直、受講するかどうか迷っています。(東京都30代女性)



参加しない理由



参加する理由



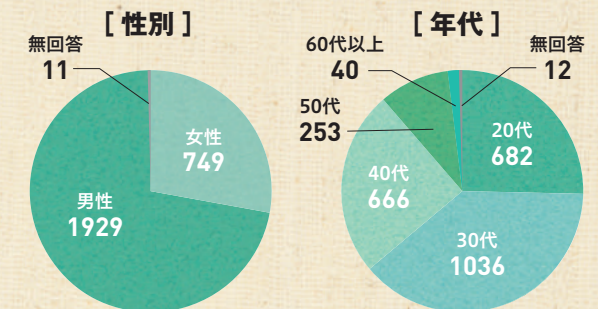
会報誌 JPTA NEWS 317(2019年2月号)アンケートでは、ご回答いただいた会員の皆さんのうち97%の方が日本理学療法士協会の主催、主催以外を問わず、「研修会」「講習会」「セミナー」へ参加した経験がありました。さらに徳島日研に参加する理由も「自己研鑽になる」が最も多い結果となりました。

会員の皆さんの自己研鑽に対する関心が非常に高いことがうかがえます。残念ながら、現状参加予定がない方にも、徳島日研の魅力をお伝えしたい。そして、一人でも多くの皆さんにご受講いただけるように、次のページでは前回の茨城日研参加者のメッセージとともに徳島日研の魅力をお伝えしていきます。



療法士になる

修大会in徳島



調査：会報誌 JPTA NEWS 317(2019年2月号)アンケート*
実施期間：2018年12月7日～12月14日 回答者数：2689名
*マイページに登録されている会員の皆さんのメールアドレス宛にご協力をお願いをお送りいたします。メールが届いていない方は、マイページ上に有効なアドレスが登録されているかご確認ください。

Q1 あなたは「研修会」「講習会」「セミナー」等を受講したことがありますか？

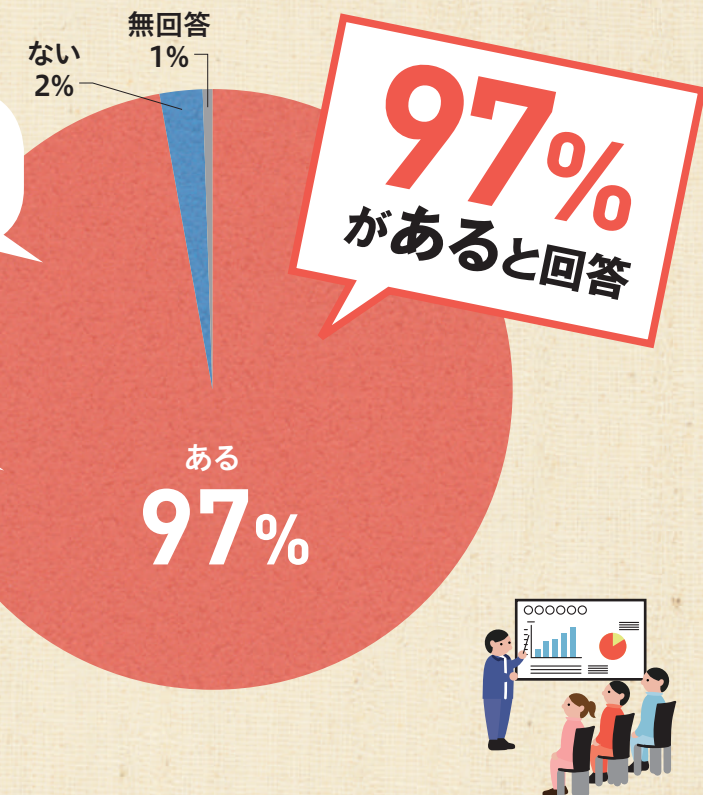
「日本理学療法士協会／都道府県理学療法士会が主催している研修会」を受講したに☑した方は

2616名/2689名

「日本理学療法士協会／都道府県理学療法士会以外が主催している研修会」を受講したに☑した方は

2221名/2689名

- 医師会・看護協会が主催しているもの
- 卒業校が主催している実技講習
- 日本障がい者スポーツ協会主催のもの
- ボバース・PNF等の回答をいただきました。



豆知識

「学術研修大会」の歴史

本年で54回目の開催となる学術研修大会は、協会設立の歴史と歩みを共にしています。今号の特集にちなんで、会員の皆さんに知っておいていただきたい、学術研修大会の歴史をお伝えします。

第1回目の開催地は？

第1回の学術研修大会は、なんと本会が設立されたその年(1966年)に東京大学構内・東京大学病院内で開催されました。当時の日本理学療法士協会ニュース(現:JPTA NEWS)に記載されています。

主な演題は「PT部門の管理と運営について」。日本の医療界における理学療法法の萌芽がうかがえます。その他にも「治療器具機械に関する正しい取扱いについて」「片麻痺のリハビリテーション」などの演題で講義が行われました。

また、当時は外国からも講師の方をお招きして、通訳による講義も開催されていました。

最も開催が多い都道府県は？

第1回、第2回、第4回、第6回、第8回、第13回と、6度開催された東京都が最多です。第54回の開催地となる徳島県は、第24回(1989年)「理学療法領域と可能性」以来2回目の開催となります。



※1966年に発行された日本理学療法士協会ニュースNo.1



テーマ

社会から認められる 理学療法士になる



第54回日本理学療法学会in徳島

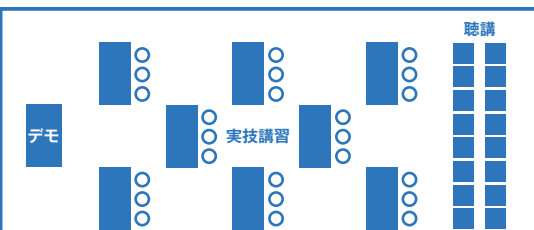
開催日 2019年5月25日(土)～26日(日)

メイン会場
徳島文理大学
〒770-8514 徳島県徳島市山城町西浜傍示180
アスティとくしま
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示1-1

サテライト会場
徳島大学病院
〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

本大会は、臨床に活かせるものを身につけるため、昨年から新しいスタイルで再発進いたしました。幅広いジャンル、充実した内容の研修を企画し、一人でも多くの会員の皆様が徳島へ足をお運びくださることを願っております。(準備委員会より)

多くの領域の「実技講習」を取り入れます
ライフスタイル大会



4つのサブテーマ

1. 科学的知見に基づく臨床推論力の向上
2. 科学的根拠に基づく臨床実践力の向上
3. 地域で求められる理学療法士の養成
4. 未来へのバトン(理学療法士教育)

更衣室もご用意しますが、実技が行いやすい服装でお越しください。

かずら橋



みんな来てね!



阿波おどり



会場には徳島のお土産さんも
出店しています!
徳島の美味しいものをゲットしましょう!

大会長おススメ
お土産ベスト3



茨城日研参加者に聞く!

研修大会のココがスゴイ!

「全国理学療法学会研修大会」は開催時期をはじめ運営方針などが大きく変わり、「日本理学療法学会研修大会」と名称が変わりました。その第1回目となった第53回日本理学療法学会研修大会in茨城に参加した会員の皆さんにメッセージをいただきました。徳島日研への参加を迷っている方、ぜひ参考としてください。

▼明日からすぐに 使える技術が学べました

私が「臨床力を高める(OSCE)」を受講したきっかけは、理学療法士協会から送られてきた資料の「臨床力を高める」という言葉に興味を持ったためです。

「臨床力を高める(OSCE)」を受講し、評価の大切さを再認識しました。以前より問題点の抽出・治療戦略を立てる際に難渋しておりました。今回の研修では他のセラピストが普段どのように患者様に介入しているかを見学させて頂けることも大きなメリットだと考えます。受講を通して、先輩セラピストと比較すると、身体機能評価が足りていないと実感しました。卒後、臨床場面での介入方法を他者から評価してもらい、助言をもらう機会が少ないので自身の課題が明確になりました。なにより、多くの先輩セラピストの前でOSCEを行うことが自信に繋がりました。

一般的な講習会は知識の向上を図るものが多いですが、知識の結びつけが苦手な私にとって実践形式の研修はとても有意義な時間になりました。



※イメージ



Topic 1



経験年数：2年目

小川 俊さん
Shun Ogawa

▼管理者、指導者としての スキルアップ

私は急性期・回復期・生活期にそれぞれ合わせて4つの事業所がある法人で新規機器の評価、企業や大学との共同研究、療法士の学術活動支援などを行う研究開発部門長という職務に就いています。

今回、組織管理について学ぶため、2日間開催された「中堅管理者向けの職場管理研修」を受講しました。座学では経営学を基礎とした管理論を学び、集団討議では急性期回復期・生活期それぞれのステージに属するメンバーと様々なワークショップを行うことで、学んだ理論をより広い視点で捉え、理解を深めることができました。

研修全体を通じ、スタッフの創造性や知識を統合し、経営資源として活用する「ナレッジマネジメント」という視点が得られ、学術を通じた組織管理の方向性が見えてきたことが最大の収穫です。

今回から日研は研修を事前登録するなど運営方法に大きな変化がありましたが、これにより参加者はより明確な目的意識を持つことができ、深い学びに繋がったのではないかと思います。



※イメージ



Topic 2



経験年数：16年目

中谷 知生さん
Tomoki Nakatani

JPTA NEWSは会員の皆さんで作る冊子です。
「意見・感想・質問等」を寄せください。



第54回日本理学療法学会学術研修大会
in徳島 大会長

鷺 春夫 氏

公益社団法人
日本理学療法士協会 会長

半田 一登

第53回日本理学療法学会学術研修大会
in茨城 大会長

斉藤 秀之 氏

社会に認められる 理学療法士を目指し、 臨床能力を高める学術研修大会へ

学術研修大会は、第53回から名称をはじめ、開期やあり方が大きく変わりました。今回の対談では、今後の学術研修大会のあり方について、第53回日本理学療法学会学術研修大会in茨城の大会長 斉藤 秀之氏、第54回日本理学療法学会学術研修大会in徳島の大会長 鷺 春夫氏をお迎えしてお話を伺いました。

等、若い世代が大会に興味を持ち、参加したいと思う動機を作ることが大事だと思います。また今回初めて導入した「mini-CEX」では、受講者の評価を行うために、医療施設へ日本理学療法士協会（以下、協会）の役員が評価者として訪問しました。このように、来るのを待つのではなく、こちらから出向くことで、若い世代の興味を喚起できることもあると思います。施設や患者さん、地域への広報効果も期待できるでしょう。

半田…ほかに、何か問題点はありませんでしたか？

斉藤…茨城県の中核を担う次世代の会員を見つけ出して育てることで、士会組織としての構造改革をしようと試みましたが、これは今後の課題としてまだ残っています。協会・士会・準備委員会が三位一体となって事業運営を行える体制の構築が課題と言えるでしょう。

半田…次回第54回日本理学療法学会学術研修大会in徳島（2019年5月25日～26日実施、以下、54回大会）について教えてください。

鷺…社会により認められる理学療法士を育成することを目的として、臨床能力の向上を主軸とした内容にする予定です。実技中心の研修を県内18会場で60研修実施します。茨城は1日通しで受講して1セットという形式をとりましたが、徳島は3時間で1セットという研修の形式をとり、最大で4つの研修を受けられるようにします。地域での理学療法士の活動紹介や教育といったサブテーマも設ける予定です。

半田…士会が中心になって大会を企画・運営することで、組織力の向上や発展にもつながるのではないですか？

鷺…確かにそうですね。徳島県理学療法士会も第54回大会開催をきっかけに事務所を持つことになりましたし、士会活動も活発化するのではと期待しています。

半田…大会を企画するにあたって意識したことは？

鷺…「全国学会は分科学会化が進んで特定の分野しか勉強できなくなった、だから今は地方のブロック学会のほうがいろいろな勉強ができてよい」とい

「臨床」をキーワードに 実技中心で行われる 第54回大会

改革年の記念すべき 第53回大会を 振り返って

半田…理学療法士として求められる臨床技術をしっかり身につけてほしいという狙いから、学術大会も学術研修大会も、2018年から内容を大きく変えることになりました。今後数年間の運用が、理学療法士の将来を左右する大きな転換点になると思います。第53回日本理学療法学会学術研修大会in茨城（2018年5月25日～26日実施、以下、第53回大会）は内容を変えての初めての大会でしたが、現場の反応はいかがでしたか？

斉藤…第53回大会は「疾患別の理学療法」ではなく「障がい」を主軸に構成しました。なにぶん全てが初めての取り組みでしたので、企画も運営も手探りでし

たが、一定の成果が得られたのではないかと思います。

半田…今年度から企画も運営も都道府県理学療法士会（以下、士会）に二任することになったので、大変だったのではないのでしょうか。

斉藤…そうですね。第53回大会の肝は「企画」で、企画したところまでは良かったのですが、準備する側に意図がなかなか伝わらなかったという苦労がありました。ただ、終わってみると、運営側からは「またやりたい」「良かった」、若い参加者からは「面白かった」という声をもらいました。1年目～2年目の理学療法士たちも、いろいろな分野の

勉強ができて良かったようです。

半田…第53回大会の運用を通して意識していたのは、どんなことですか？

斉藤…1つは、分科学会と学術研修大会とのコントラストを明確に出したいということ。もう1つは、春に開催することで、「これから理学療法士として、こういうことに取り組みなければいけない」というモノサシになるような大会にすることでした。その

ために、疾患ではなく障がいや動作、運動療法といった原点的なものや、世の中で理学療法士に求められていそうなキーワードを盛り込んだ内容にしました。

半田…実施してみて、課題と感じたことは？

斉藤…多くの方に参加していただきましたが、私としては、もともとたくさんの方に参加してもらいたかったなど。準備期間が短かったというもあります

が、若い世代に向けて、広報をもっと工夫すべきだったのではと感じています。

半田…研修の受講に消極的な若い世代にも響くようなアピールが必要だと？

斉藤…ええ。そのためにはチラシやポスターを印刷して満足するのではなく、彼らの需要を研究し、情報が手元に届く工夫が必要です。短い動画の作成やホームページの定期的な更新





(取材日：2018年12月24日)

う声も聞きます。全国学術研修大会は、そのブロック学会のように、いろいろな技術を身につけられる場にしたいと思って企画を考えました。

半田…これから現場に出る若い人には、技術や知識の引き出しをできるだけたくさん作ってあげるのが大事ですよ。それ、座学ではなくて実習で。

鷺…そう思います。ですから今回は30名くらいの会員が中心になって、自分たちがやってみたいと思うことに特化した企画を作りました。例えば徳島大学歯学部との協力を得て、単なる「解剖」ではなく「人体解剖学」が学べるようにしています。徒手療法にしても、ご自身が就職したところの先輩がやっている技術だけではなく、6種類の技術が学べるような講座にし、学ぶきっかけになるように工夫しています。関心や必要性に応じて、ぜひいろいろな研

修を受けていただきたいです。

半田…臨床の現場においても「私は脳卒中の患者さんしか診ません」というような理学療法士は少ないと思います。複合的な障がいを抱えた方々に対応できるようにしてあげることが大切です。臨床実習指導要領改訂も、理学療法士養成校の先生も必ず臨床現場に出ていること、学生も1年生から臨床に参加させることなど「臨床」をキーワードに改定されました。研修会もこうした流れに沿うよう、内容を柔軟に変えていってほしいと思います。

鷺…「臨床」が大きなキーワードですね。

半田…そうですね。そのためには一方通行の講義ではなく、わからないことをその場で質問して答えてもらえるという時間をもとだけ作れるかがポイントになるのではないのでしょうか。



若い世代へ技術と経験をいかにつないでいくかが課題

半田…平成18年度の診療報酬改定で「疾患」をキーワードにリハビリテーションを提供するようになり、その人の「障がい」を念頭に置いた理学療法の提供という考え方そのものを知らない理学療法士が増えていきます。

齊藤…自分たちの世代では当たり前で、現場で実際に必要になるようなことが、診療報酬上では必要ないということで次世代に伝えられなくなっているように感じます。何らかの方法で自分たちが伝えていかないとけないですよ。

半田…「痛み」というのは人にとつてかなり深刻な問題です。理学療法士は、痛みを治すチャンス権利を持っているのに、若い世代の関心が薄いように思います。たとえば、「歩かせる」というのは理学療法士として重要な責任だと思いますが、歩行用装具について関心を示

す方が少ない。こうした問題に対して、協会としてどう取り組んでいくべきか、考えています。

鷺…講座を組むなら、例えば脳卒中の内反尖足に対してはこういった運動療法がある、物理療法があるといった講座にしたほうが、多くの方が関心を持つてくれそうな気がします。

半田…「物理療法」と言うよりも、痛みに対する理学療法といったほうが反応がよいということでしょうか。

鷺…そうですね。

齊藤…主催する側の意図を正しく理解し共感してくださる講師を選ぶことも大事ではないでしょうか。

半田…講師にも協会、士会の意図するところをしっかりと伝えて、一体となって研修大会を運営していくことが大事だと思います。

います。運営上課題だなと思うのは、例えば様々な徒手療法がある中で、特定の技術の固有名詞を出すか出さないかということ。ただ新しい技術というだけで否定してしまうのはどうかと思います。批判はもちろん出てくるとはありますが、最終的に判断するのは参加者ですから、取りあげてもよいのではないかと思っています。

鷺…第54回大会でも、AKA博田法などの固有名詞を出した研修を開催します。様々な治療を公平に取り扱うようにし、協会の認定専門の資格をお持ちの方に依頼する等、配慮しています。企画・運営・内容・講師への伝達も含めて、引き継いでいくべきだと思います。

半田…昨今、理学療法士としての基本的な能力、特に臨床能力が落ちている点が懸念されます。「理学療法士」と名乗り、「理学療法」を提供する立

場であれば、それに見合う臨床能力をつけなければなりません。そのためには学術研修大会の内容も変えていくべきであるというのが今回の変革の最大のポイントです。協会として研修大会を担う皆さんにぜひお願いしたいことは、やる気のある若い人に理学療法士としての夢を感じてもらえるようなこと。若者の「もっと学びたい」という意欲をかき立てるような企画・運営を期待しています。第53回大会、第54回大会は貴重なスタート地点です。社会からより認められるような理学療法士を一人でも多く育てるために、よりよい学術研修大会を実施していただきたいと思っています。



気をつけよう！

理学療法士の周りのハウリツ

vol
41

医道審議会という会議をご存知でしょうか。医道審議会は厚生労働省が開催する会議であり、中でも私たち理学療法士にとって特に関係が深いものが、医道審議会理学療法士作業療法士分科会と医道審議会理学療法士作業療法士倫理部会の2つです。特に後者の倫理部会は、理学療法士・作業療法士が法律違反を犯し、罰金刑以上の刑が確定した時に理学療法士・作業療法士免許を取り消すべきか（免許取消）、一時的に停止すべきか、免許の場合期間はどの程度かを審議します。

このシリーズで何度もお知らせしているとおり、交通事故、飲酒運転、暴力行為、痴漢・盗撮などの性犯罪、詐欺などで罰金刑、禁固、懲役（執行猶予の有無は関係ありません）などに処せられると理学療法士免許の取消、停止（正確に言えば名称使用の停止）の行政処分が下ります。名称使用停止期間中は診療報酬の請求ができなくなります。

外部リンク：医道審議会
（理学療法士作業療法士倫理部会）

<https://goo.gl/H5vrxN>



医道審議会

都道府県によって名称は異なりますが、青少年健全育成条例違反により罰金刑以上に処せられた場合も同じです。

残念ですが、私たちの仲間である理学療法士が毎年数名処分されています。過去に免許取消となった事例もありました。

医道審議会の結果は厚生労働省のホームページに公開されていますので、一度確認してください。少しの気の緩みで起こしたことであってもその代償は非常に大きいのです。厳に慎んでください。

なお、免許取り消し、停止の理由に心身の障害も含まれます（理学療法士及び作業療法士法第4条第1項第3号、第7条）が、心身の障害を理由に免許の取り消しまたは停止が行われた事実を筆者は把握していません。

教えて！田中まさし先生！

このコーナーでは、本会理事の田中まさしが全国を訪問し、若手会員の皆さんからいただいた様々な相談に丁寧にお答えしていきます。
ご質問はJPTA NEWS 編集担当までお送りください。

田中まさし公認ゆるキャラ
まーくん



田中 まさし
Masashi Tanaka

1965年10月11日 北海道札幌市生まれ
1987年 清恵会第二医療専門学校卒業後
河内総合病院・上山病院・
札幌東徳洲会病院
1995年 北海道千歳リハビリテーション学院
（副院長、理学療法学科長）
2010年 北翔大学大学院人間福祉学研究所
人間福祉学専攻修了（修士）

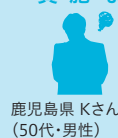
会員限定コンテンツに
アクセスしよう！

<http://www.japanpt.or.jp>



Click!

Q 職能団体として政治活動に傾注せず、本来の学術・自己研鑽を推奨する取り組みを中心とすべきではないでしょうか。最近、政治活動に関する協力依頼が施設宛に多くあります。執行部の皆さんが協会の本質を忘れていないかと懸念しています。



鹿児島県 Kさん
（50代・男性）

A 職能団体としての役割は、学術の探求やスキルの向上を踏まえた臨床力の向上によって、専門職として国民の負託に応えることが最も重要であることは間違いありません。学会や生涯学習システム等を通じて全ての理学療法士が自己研鑽に励んでいただきたいですし、管理者研修会等を通じてマネジメント力の向上および地域への拡大を進めていただきたいと思っています。

一方、理学療法士の希少性が失われ平均給与が下降する現状に加え、医療・介護サービスが地域や在宅へ大きくシフトしていく状況にあつて、職域や職務内容の多様性を拡大し、介護・予防・保健の領域における業務・裁量権・財源を政治的な活動によって確保していかなければならないと思います。身につけた臨床力とそれを活用できる職域、そして得られる身分・待遇によって進められる自己研鑽が、社会における理学療法（士）の普及および活用の持続可能性を守っていくことにつながるものと思います。高水準の理学療法をこれからも提供し続けるため、職能団体の大きな役割は構成員（会員）の生活を守ることではないでしょうか。

学術と自己研鑽、臨床力、データ、政治力の全てが理学療法士には必要です。ご理解をいただけると幸いです。

会 長をしていると様々なストレスがありますが、その一つに若い時に理学療法について真剣に努力をしなかったことによるコンプレックスがあります。38年間の臨床を離れ十数年が経ちましたが、このコンプレックスは歳を重ねるごとに強まっているように感じます。患者さんや家族の行く末は、担当した理学療法士の臨床能力によって大きな影響を受けます。今になって、私が担当した数千人の方々の生活はどうだったのか、その後満足な人生を送ってくださるかと自分自身に疑問を投げかけています。



本理学療法士協会として早急に解決しなければならぬ大きな課題です。

理学療法士が社会的に活躍の場を広げるためには、新たに与えられた新しい領域においてもしっかりと実績を作っていかなければなりません。それこそが本会が分科学会化をした本質的な理由であり、そこで標準化された理学療法の技術を、より多くの理学療法士に伝達するのが生涯学習システムであり日本理学療法学会研修大会なのです。

毎年1万人前後の理学療法士が新たに誕生する現在、職種としての希少価値にす

平成26年の診療報酬改定で理学療法士の病棟配置、平成30年の診療報酬改定ではICUでの理学療法士配置加算を勝ち取りました。また先日、元厚生労働大臣と面談した中で「地域包括ケアシステムの中心人物は当然ながら理学療法士でしょう。」という言葉いただきました。我々の領域はここ数年でとても広がってきていますが、そこには大きな課題もあります。新しい領域での理学療法の標準化が遅れていることです。標準化が遅れることによって、その分野で活躍できる人材の質と量が不十分であるという問題が出てくるのです。これは、日

Top Message

コンプレックスと自信

がる時代ではなくなり、一人の理学療法士としての価値を高めることが大事になりました。そのために、各々が社会情勢を見極めるアンテナを常に張り廻らせ、その情報を吟味しなければなりません。そして目指す方向が決まったら、一心に前に進んでいただきたいと思います。前に進むことによって、コンプレックスは自信へと変化するのです。

私のように過去に未練を残さないように、頑張って前に進んでいただきたいと心から願っています。我々は治療者なのです。

会長
半田 一登

INFORMATION

年会費の納入期限は3月末日まで!

会員数 110,662名 平成31年1月7日現在

楽天カード・口座振替の方は3月27日引落。

引落登録のない方は、3月上旬頃までに振込用紙を順次送付します。

異動・休会・復会・退会等 お早めにお手続きください

日本理学療法士協会(以下、本会)ホームページ内の【マイページ】へログインし、【会員管理】からWeb 申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAX による各種申請は受け付けておりません。
(URL) <https://bit.ly/2yFFVaf>

※ Web環境がない場合は、本会事務局(TEL:03-6804-1421)へお問合せください。



異 動

マイページからお手続きください。年会費は【異動前】の都道府県理学療法士会への納入となります。

新しい登録情報が反映されるのは4/3以降となります。休会・退会を希望される方は、必ず「休会申請」「退会申請」の画面からお手続きください。

(異動申請をされた場合、4/3までその他の申請手続きがお受けできません)

また、2月下旬～3月中旬に転居される方は、発送物が不着となる恐れがあります。

郵送や宅配便などの転送手続きはご自身でご確認ください。

(注)・施設移転による施設情報の変更は、施設代表者様のみご変更が可能です(異動申請は不要)。【マイページ】へログインの上、「会員管理」⇒「マスタ管理」⇒「施設情報メンテ」よりお手続きください。

休会・退会

2019年4月から休会または、3月末で退会を希望する方

4/1までに休会申請または退会申請をお手続きください。入れ違いで年会費を請求する可能性がございますが、お支払いは不要です。引落決済が確定した場合は、後日返金させていただきます。
※年会費納入確定後、4/2以降に休会・退会を申請された場合は返金いたしかねます。

現在休会中で、休会継続を希望する方

3/31までに休会申請をお手続きください。
3/31までに申請がない場合は、退会手続きをさせていただきます。

休会中ならびに退会後は下記の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加
(非会員価格での参加となり、会員対象の研修会への参加はできません)
- 理学療法士賠償責任保険への加入(全員加入・任意加入)
- 選挙権、被選挙権
- 各種学会への無料での演題登録
- 学術論文誌「理学療法学」ならびに会報誌「JPTA NEWS」の発送
- 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用 など

(注)・一度退会した場合、すべての生涯学習ポイントはリセットされます。再入会時は再度履修をお願いします。・退会される場合は、会員証を速やかに破棄してください。

復 会

2019年4月から復会を希望する方

3/31までに復会申請をお手続きください。
年会費納入後、且つ、4/1以降に「在会」となります。

会費割引(育児休業・シニア・海外)

マイページから会費割引申請をお手続きください。2020年度年会費が割引適用となります。

※海外会員割引を希望される方は、本会事務局へメールでお問い合わせください。(JPTA会費担当:billing-chg@japanpt.or.jp)

マイページのログインID・PWの再発行について

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、再発行の申請をお願いします。

年度末は申請が大変混みあいます。余裕をもってお手続きください。

(URL) <https://bit.ly/2jrBqEG> (注)お電話によるID・PWのご照会はありません。



クラブオフについて

本会では、**会員優待料金**で様々なサービスが利用可能な「**日本理学療法士協会 クラブオフ**」をご用意しています。

〈特典内容〉**セントラルスポーツ**

【法人会員券】

VIP会員540円

スタンダード会員1,080円



◎その他、お得なサービスがたくさんあります!

詳細はこちら→



モノ作りから考える

新規事業開発担当者

が考える

ヒトの暮らし

読者の皆さんは、どのようなきっかけで理学療法士になりましたか?

これから、どんな仕事がしたいと思っていますか?

今号のコラムでは、某メーカー企業にて新規事業開発を担当する

鎌形さんにお話を伺いました。

理学療法士と鎌形さんのお仕事の意外な共通点から

皆さんはどんなことを感じるのでしょうか。

モノづくりで
人を幸せにしたい

私は、今働いている会社にてエンジニアとして入社し、現在は新規事業開発担当者として勤務しています。エンジニアになろうと思ったきっかけは、子どもの頃に色々と工夫してレゴブロックを組み立てたり、当時流行っていたミニ四駆(小型の動力付き自動車模型)を改造した時のワクワク感そして家族や友人に見せた時の彼らの笑顔です。これが「モノづくりは人を幸せにする」という原体験でした。

Seeds&Needs

新規事業開発とはどのようなことをするのか、簡単にご紹介します。高度経済成長期に代表されるような、良いモノや技術(Seeds)を極めた製品がお客様に受け入れられた時代と比べ、現代は目まぐるしく変化する社会が何を求めているのか(Needs)を読み取って、

逆転の発想で技術や製品を開発することが求められる時代です。私は、研究開発の視点も持ちながらNeedsを掘り起こすことで、より人の生活に寄り添った技術や製品開発が出来るよう、技術とビジネスの橋渡しをするのがこの仕事の面白いところだと思っています。

**お客様が本当に
求めるモノは何か考える**

実は、このコラムのお話をいただくまで、理学療法士さんたちのお仕事についてよく知りませんでした。執筆にあたりお話を伺ったのですが、私たちの仕事と理学療法士さんたちの仕事は似ているのではないかと感じています。

例えば、私たちにとって「便利な新型歩行補助ロボット」を開発することとは、皆さんが患者さんや利用者さんに「素晴らしいテクニックの理学療法」を提供することに似ています。

私たちにとっての「ロボット」があくまでも手段であるように、本当に大切なのは「お客さんや患者さんが本当にやりたいことは何なのか」を考えることです。人々は便利になった機械に「動かされる」のではなく、自らの意志で動いて社会に参加することを求めているはずです。

一歩外に出ると広がる世界

未来の日本について、後ろ向きなニュースをしばしば耳にしますが、私はそうは思いません。他者への細やかな思いやりを持ち、まじめに地道に試行錯誤を重ねることのできる日本人は、国際社会の中でまだまだ活躍できると思っています。

例えば、仕事上やり取りしている国内外のベンチャー企業の中にも、医療専門職の資格をお持ちの方が立ち上げた企業がいくつかあります。医療や介護の現場で常にユーザーと触れ合うことで、彼らが何に困っているのか?何が足りないのか?Needsに真摯に向き合っているからこそ発想し、展開できるビジネスがあるのだと思います。

皆さんとも新規事業開発の現場で一緒に仕事できる日を期待しつつ、私もお客様と真剣に向き合いながら日々の仕事に取り組みたいと思います。

※今号のコラムではご寄稿いただいた方のご勤務先は掲載いたしません。

JPTA NEWSリニューアルからの新コーナーでは、様々なご職業の方から、理学療法士である会員の皆さんへメッセージをいただきます。
お問合せ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

会員の皆様へ重要なお知らせ

2019年4月から
マイページ (会員限定コンテンツ)
へのアクセス方法が
変わります!



マイページボタンが消えて



「会員の方へ」が
マイページボタンになります。



第7回

写真コンテスト



笑顔
あきらめない。

最優秀賞 賞金5万円^(1点)

優秀賞2点: 賞状 賞金3万円

佳作 : 賞状 賞金5千円

応募期間: 2019年1月11日～6月30日

理学療法士の活動に関するオリジナリティ
あふれる写真と作品に関するエピソード
(200～400文字以内)をお送りください!

詳細はこちら

<https://goo.gl/vtyuhq>



※写真は第6回受賞作品です。

公益社団法人 日本理学療法士協会は「理学療法の日」(7月17日)の広報活動の一環として、「笑顔をあきらめない。」写真コンテストを開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。詳細は、協会Webサイト内の応募要項をご覧ください。
【問合せ先】事務局秘書広報課 写真コンテスト担当(03-6804-1422)



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

HPへアクセス

